

助成年度：平成 27 年度

[所属] 東京大学 工学部

[役職] 日本学術振興会特別研究員 P D

[氏名] 曾我 昌史

[課題]

大都市ポケットパークにおいて保全と利用は両立できるか？ 景観生態学と環境経済学による分野横断アプローチ

[内容]

世界的に大都市圏への人口集中が加速する昨今、都市に存在する小・中規模緑地（ポケットパーク）を活用したレクリエーション活動の促進ならびに生物多様性の保全が、強く求められている。本研究では、景観生態学と環境経済学の研究手法を統合した分野横断アプローチを用いて、生物多様性保全とレクリエーション機能を最大限発揮させるための大都市ポケットパークの管理手法を確立することを目的とした。

2015年10月から2016年3月までの間に、東京都でこれまで報告されている生物多様性データ（主に鳥類と昆虫類）の収集と整理を行った。さらに、2016年4月から9月には、各ポケットパークにおいてどれほど緑地利用者がいるのかを現地アンケート調査により調べた。データ解析の結果、（1）生物多様性（鳥類および昆虫類の種数）は面積が大きいポケットパークで高いこと、また（2）緑地の面積だけでなく、緑地内の樹木密度もポケットパーク内の生物多様性に正の影響を及ぼすことが明らかとなった。さらに、緑地の利用者数についての解析を行った結果、レクリエーションの利用者数も、面積が大きく樹木密度が高いポケットパークで多いことが明らかとなった。

以上の結果は、生物多様性保全としての価値が高いポケットパークは、レクリエーションの場としても価値が高いことを示唆している。すなわち、生物多様性が豊かなポケットパークは緑地利用の観点から見ても好ましいと考えられる。今後の研究では、本研究で得られたパターンがどのようなメカニズムによって引き起こされているのかを詳細にする必要があるだろう。